



(写真①) ポルトガル語で書かれたごみの出し方の看板
 (写真②) ブラジルのお店で店長さんにインタビュー
 (写真③) ブラジルのお店で買い物
 (写真④) 工場で働くブラジルの人にインタビュー
 (写真⑤) 近くの公園で、ブラジルのお母さんにインタビュー

外国の人ともっと仲良く生活したい

文・写真／紀藤雅典（古井小学校 3年）

ぼくたちの通う古井小学校には、外国の友達がたくさんいます。そして、町には、ブラジルの人を中心に外国の人が多く住んでいます。ごみ収集場にはポルトガル語で書かれた看板が立っていたり、ブラジルの人が開いているお店もあります。

そこで、ブラジルのお店で働く人や工場働く人、公園で子どもと遊ぶお母さんに、ぼくたちの町について聞いてみました。そして、分かったことがたくさんありました。

まず、美濃加茂市はいろいろな所にポルトガル語が話せる通訳の人がいて助かり、とても住みやすいということでした。ほんの少しも安全、安心してくらせる町だそうです。

反対に問題点にも気づきました。それは、ブラジルは災害が少ない国なので、広報の放送が流れると不安に思うということでした。ぼくは、ポルトガル語でも放送してあげたり、地震のそなえやひなん場所なども教えてあげたら安心できるのではないかと思います。

また、子どもがいる人は、遊び場が少なくてまっています。ぼくの好きな文化の森やけんこうの森などを知らない人が多いことがざんねんでした。交通手段が自転車や歩きなので、あい巴士のことを教えてあげました。

ぼくがドキッとしたことは、ごみ出しのことです。ブラジルの人はごみの出し方が分からないときは、日本人の出し方をまねしているというのでした。ぼくたちは、お手本になるようにきちんと出さないといいなと思いました。

ぼくたちが、もっとポルトガル語をおぼえて、ブラジルの人がこまったとき、助けてあげられれば、いまよりもっと仲良く生活していけるのではないかと思います。